

【天竜川中期整備試案】



TENRYU RIVER



天竜川の
きょううあすみらい

建設省 中部地方建設局
天竜川上流工事事務所
〒399-41 長野県駒ヶ根市上穂南7番10号 ☎0265(81)6419
建設省 中部地方建設局
浜松工事事務所
〒430 静岡県浜松市名塚町266 ☎053(456)0114

はじめに

●近年、河川整備に対する要望・期待は、治水・利水の面のみならず、自然生態系の保全、スポーツ、レジャーや憩いの場の提供など多様化しております。それとともに、河川整備に対する社会の関心も高まっており、また、どのように河川整備が進められているのか、その効果はどのようなものかについて、わかりやすく説明されることが望まれています。今後の河川整備にあたっては、これまで以上に住民の方々や関係機関の御意見、御要望を取り入れることが重要であると考えていますが今回の公表を一つの契機として、より幅広く御意見をいただき、今後の河川整備の進め方に反映していきたいと考えております。

●この度、建設省中部地方建設局では、天竜川、木曾三川等の国が管理する河川(直轄

河川)について各河川の現状と課題、整備目標とそれに向けての進め方等について、試案としてわかりやすく示した「河川中期整備試案」を作成し、公表いたしました。

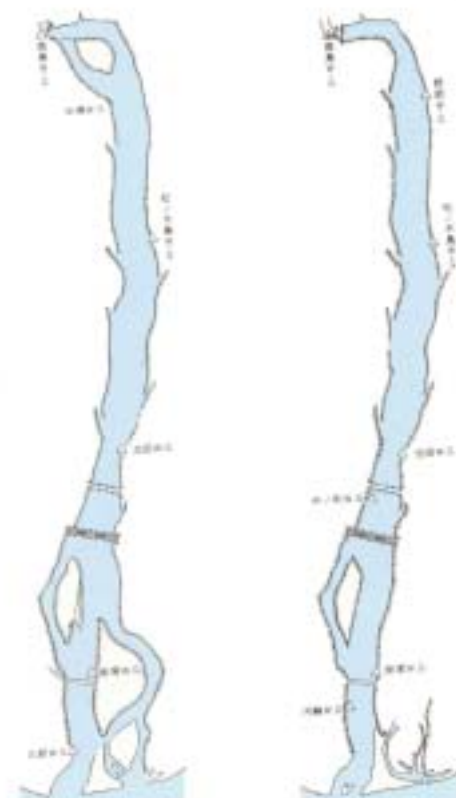
●この天竜川中期整備試案には天竜川の「現状と課題」、21世紀初頭にむけての目標とする将来像を示した「今後の整備方針」や、現状の投資ベースで推移したと仮定した場合に実施しようとする事業と課題等を示した「2001年までの整備試案」が含まれており、これらをもとに地域の住民の方々や自治体等から、一層幅広く意見を聴取し、地域によろこばれる安全で自然豊かな天竜川をつくっていきたいと考えております。このパンフレットは、このような目的のもと住民の皆様方に配布し、御意見を聴取するために作成したものです。

河川の概要

天竜川は、その源を諏訪湖に発し、中央アルプス、南アルプスに挟まれた伊那谷を南下し、奥三河、北濃の山岳地帯を流下し、遠州平野に至り、太平洋に注ぐ、わが国屈指の急流土砂河川です。

天竜川流域は、糸魚川一帯同構造線、中央構造線を始め数々の構造線・断層が走っているため、急峻な地形と相まって崩壊しやすく、洪水の度に流出する土砂の量も膨大で過去幾多の災害に見舞われ、「暴れ天竜」として恐れられてきました。

一方、天竜川は、かつては、生活物資や木材などの運搬に利用されてきましたが、現在は農業、工業、上水道あるいは、発電に利用され得る川として地域の発展に寄与し、流域の歴史と文化を育んできました。



昭和8年 第二次改修当初
昭和22年 東沢川橋切後

天竜川下流部流路の変遷



昭和33年 西沢川橋切後
昭和58年

歴史と緑の大水脈我が友暴れ天竜



天竜川の中期整備試案は、今後の河川整備について議論の「たたき台」として平成7年度夏頃までの約1年間をかけて地域住民の方々や自治体の意見を聴取するとともに、河川整備の目標とする将来像や進め方について議論を行い、今後の天竜川の整備に役立てていきます。

具体的には次のように活用していきます。

- 自治体との連絡調整会議の議題とします。
- 懇談会、シンポジウム等での討議材料として取り扱います。
- この天竜川中期整備試案のパンフレットを住民の皆様方に配布し、地方建設局や各工事事務所にて、住民の方々の御意見をお聞きします。

活用方針



先人の足跡を後世に

天竜川の治水の足跡は古く、浜北市には天宝堤、彦助堤、伊那谷には江戸期に作られた理兵衛堤防、豊兵衛堤防の跡が今に残っています。

天竜川下流部の改修は、明治初年頃、全原明善を中心として営まれてきましたが、国の直轄として第一次改修は明治18年、第二次改修は昭和2年に開始されました。堤防の築造、護岸や、洪水の勢いを弱めるための水制を施工するとともに鹿島橋下流の中瀬村上島(現浜北市)の橋切り、また東海道線より下流の沢川橋切りが大きな改修工事でした。

近年は、堤防の無い箇所での堤防の築造や古い堤防の補強、洪水の時に水が強くあたる部分の護岸、堤防や岸辺にあたる洪水の流れの勢いを弱める水制の整備を中心に改修事業を行っています。

上流部では昭和22年から国による直轄事業を開始し、高さや幅が不足している堤防の補強や、洪水の時に水が強くあたる部分の補強を重点的に実施してきました。その後、昭和36年6月の梅雨前線豪雨により、死者・行方不明者130余名という大災害に見舞われ、これを機に、堤防の築造などの改修事業が進められてきました。

改修の経緯

天竜川上流部では、

昭和22年から始めた治水事業により、特に昭和36年の大災害以降は山地からの流出土砂の抑制と合わせて、堤防の築造などの改修事業を実施してきました。

しかし、昭和58年に戦後最大規模の洪水が発生し、流域に大きな被害をもたらしたため、より一層の改修の促進が必要となっています。

昭和36年及び昭和58年の二回の大洪水で大きな被害を受けた飯田市の川路・龍江・竜丘地区は、区画整理事業等による街づくりや三遠南信自動車道の天竜線1Cの整備などにより、飯伊地域の拠点地区として今後の大きな発展が期待されています。この地域が洪水に対して安全な地区となるように、堤防を山側に移動して改修するとともに約100haの土地を戦後最大規模の洪水時の水位まで嵩上げすることとし、平成4年よりこれらの事業に着手しています。

昭和52年に、畜産管理区域に編入された飯野町から南箕輪村の約14kmの伊北地区では、その上流にある諏訪湖の蓋口水門の改築運用に関連して、堤防の築造や構造物の改築を重点的に行なっています。

また最近では、自然石を用いた護岸、間伐材を用いた伝統工法を採用し、河川環境管理基本計画の理念に基づいて、事業を実施しています。



川路・龍江・竜丘地区の浸水状況(昭和36年6月)



中堅牛による伝統工法



天竜川カヌー大会

天竜川上流部

一般に伊那谷と称されている天竜川の上流域は、標高2000m～3000m級の山々からなる南アルプス・中央アルプスの高山脈に挟まれた急峻な地形と、中央構造線などの大断層による脆弱な地質を持っています。谷の中では、天竜川沿いの地域が貴重な平地地として発展の中心となってきましたが、これらの地域はまた暴れ川天竜の被害を繰り返し受けてきた地域でもあります。このため、天竜川や支川を改修して洪水に対する安全性を確保し、向上していくことは、伊那谷が将来に向けてより一層の発展

を遂げる上で欠かすことのできない要件となっています。

日本有数の暴れ川である天竜川の安全性を確保し、地域の皆様に親しまれる「我が友天竜川」を目指して、次の方針に基づいて河川整備を進めていきます。

●現在でも、伊那谷の中心都市の一つである伊那市などでは、市街地が天竜川に沿って広がっていますが、将来には、貴重な平地地である天竜川沿川地域の一層の発展が予想されます。

このため、堤防の整備の推進などによって天竜川本川の洪水を安全に流し安全で活力ある伊那谷が実現するよう支援します。

●天竜川は「暴れ天竜」の異名を持つ急流河川です。洪水の時に水が強く当たる部分の護岸整備を完了させます。

●また、計画断面に満たない高さや幅が不足している堤防の補強を行い、洪水の時に水が強く当たる部分の護岸整備と併せて堤防決壊の危険から地域住民の人命・資産を守ります。

●伊那谷は、生態系や景観など豊かな自然環境に恵まれた地域です。河川の整備に際しては、これらの自然環境の保全・再生や水質の改善にも十分配慮し、より親しまれる天竜川を目指します。

天竜川上流部

今後は、前述の整備方針に沿って天竜川の河川整備を進めていきますが、当面の河川整備は主に以下の観点から展開していきます。

●天竜川は、三峰川が合流する伊那市より上流部では洪水が安全に流れる能力が不足していたため、諏訪湖の沿岸や天竜川の沿川でしばしば氾濫を起こしました。

このような状況を解消するために、まず、諏訪湖からの流出口である蓋口水門が昭和32年に改築されましたが、併せて、建設省と長野県により天竜川上流部の改修を進めています。当面は、平成12年を目標に、蓋口水門から400m/secの放流があっても安全に流下し、沿川に被害が生じないような河川としていきます。

●天竜川沿いには、南岸に山が迫り、川の幅が狭くなっている部分と河川の氾濫によって形づくられた平地が交互に位置しています。河川の氾濫によって形づくられた平地は急峻な地形の伊那谷における貴重な平地部ですが、同時に洪水による被害を受けやすい地域でもあります。

飯田市にある川路・龍江・竜丘地区もそのような地域の一つです。昭和36年の「伊那谷災害」や昭和58年の洪水により大きな被害を受けましたが、この地域は、今後の

今後の飯伊地域の発展を支える重要な地域として期待が高まっています。飯伊地域は平成5年2月に地方拠点都市地域に指定されましたが、その中で川路・竜丘地区は地域発展の新たな核となる拠点地区に位置付けられ、区画整理事業などの推進による新たなまちづくりが予定されています。

このため、区画整理事業などまちづくりの目標年次が平成14年であることから、平成13年には戦後最大規模の洪水(昭和58年9月洪水相当)が発生しても安全なように改修を進めることとしています。



伊北地区改修

河川の現状

歴史と大水脈へ

今後の整備方針

21世紀初頭を目指した整備の方針

2001年までの整備試案



鹿島の花火

天竜川下流部では、

明治18年から始めた改修事業は、天竜市鹿島から河口の隅で東西派川の締切り、堤防の築造、護岸、水制を施し、中流部の天竜市鹿島から長野県境では、集落を洪水から守るための堤防の築造や護岸等を実施してきました。

しかし、現在においても堤防のない区間が一部残っていると、特に下流部については流水の乱流が著しく局所洗掘が発生する事が考えられます。

このため、より一層の洪水に対する安全性を高めると共に、浜松市を中心とした地域の生活、産業基盤を支えるため今後共、堤防の築造や、護岸の整備が必要となっています。

天竜川下流部

浜松市を中心とした遠江の地は「遠い江」のごとく古くから京の文化が及ぶ一方で、東国の文化もとり入れてきました。今日に至っても関東、関西の中心に位置し、どちらに属するものでもなく世界を祝った経済活動が活発に展開されています。

その源となっているのが天竜川で、地域社会の発展に貢献してきました。

しかし、過去には度重なる洪水被害に見舞われ貴重な生命、財産を失うなど社会、経済的に大きな損害を与えてきました。

このような事から天竜川を改修して洪水に対する安全性を確保し、向上していくことは当地方にとって最重要課題であり、次の方針に基づいて河川整備を進めていきます。

●諸活動の中心となっている浜松市街地、浜北市街地をはじめとする沿川地域全体を

支える基盤整備として、洪水を安全に流すために堤防のない地区の整備を進めます。

●天竜市北鹿島地区をはじめとする中流部の高さや幅が不足している堤防の補強を行い地域を洪水の危険から守ります。

●天竜川は平野部に出ても急流です。洪水時には局所的な洗掘を受けやすいため、洪水のときに水が強く当たる部分に護岸や水制の整備を実施し、堤防の安全性を高めます。

●近年の社会のニーズに対応すべく河川における水辺空間の利用等、天竜川環境管理基本計画と整合を図りながら環境的整備を実施します。



生態系を配慮した護岸

天竜川下流部

前述の整備方針に基づき以下について事業の展開を図っていきます。

●沿川のうち、広大な背後地をもつ地域の展開に対応して、浜松市豊西地区に堤防の整備を実施し、概ね30年に1回程度起きる確率規模の洪水を安全に流すことが可能に

なるとともに背後地の利用を拡大します。

●洪水を安全に流すために天竜市北鹿島地区において堤防の築造や堤防補強を実施します。

●沿川地域への憩いの場の提供として、堤防補強と合わせ地域の景観や生活に溶け込んだ良好な水辺空間を創出します。



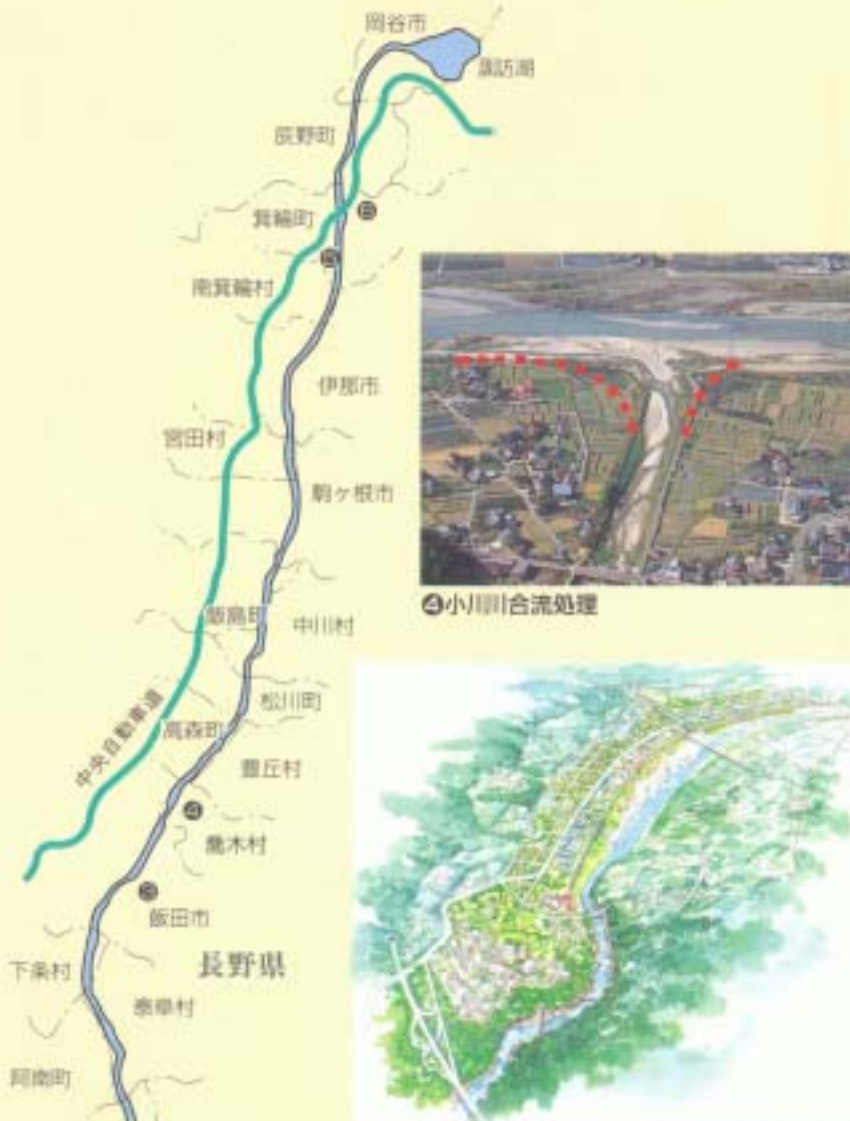
河川敷利用状況

●天竜川は諏訪湖に水を流していますが、沿岸に人口が集中し、各種の産業も発達しているために、諏訪湖の水質は著しく悪化しています。この影響は天竜川でも顕著に現れており、上流部においては定められた環境基準を満足できない場合もしばしば見られます。

このため、諏訪湖を管理する長野県と共同して、諏訪湖を含めた天竜川上流部の水質の改善に取り組みます。



③三日町頭首工改築



④小川川合流処理



⑥川路・龍江・竜丘治水対策事業



①豊西築堤



②北鹿島築堤

2001年までの整備試案プロジェクト表

プロジェクト名・概要	整備効果	予定工期											関連事業		
		6	7	8	9	10	11	12	13	14~					
①豊西築堤 堤防のない箇所にて堤防を築造します。	豊西地区で堤防のない箇所の締切りにより、1/30規模の洪水を安全に流すことが可能になるとともに背後の土地利用の拡大が図れます。		完成												一般国道二号線堤防改良事業（静岡県）
②北鹿島築堤 堤防のない箇所にて堤防の築造及び護岸を整備します。	天竜川下流部の川の幅が狭くなっている部分において、洪水に対する安全性を高めます。														
③川路・龍江・竜丘治水対策事業 洪水に対する安全性を向上させるため堤防の整備を行います。	戦後最大規模の洪水を流すことができ、背後地の有効利用を図ることができます。												完成		区画整理事業（飯田市） 新造上流大規模治水事業（長野県） 特定環境保全公共下水道事業（飯田市） 小規模河川改修工事（長野県）
④小川川合流点処理 高さや幅が不足している堤防の改修を完了させます。	計画の基本となる洪水の最大流量を流すことができます。												完成		特定環境保全公共下水道事業（高木村）
⑤三日町頭首工改築 川の大きさを狭めている堰を改築し、洪水を安全に流せる川の大きさを確保します。	川の大きさを狭めている堰を改築し、洪水を安全に流せる川の大きさを確保します。												完成		中小河川改修事業（長野県）
⑥伊北地区改修 高さや幅が不足している堤防の改修を完了させます。	諏訪湖出口水門放流量400m ³ /SECに見合った洪水を流せる川の大きさを確保します。												完成		中小河川改修事業（長野県）

今後の河川整備の課題

古来より「暴れ天竜」として恐れられてきました天竜川も一方で、「母なる恵みの川」として流域の生活や産業を支え、流域の文化を育んできました。

21世紀に向け流域はアクトシティ、浜松地域テクノポリス、第2東名、三遠南信自動車道等大型プロジェクトを展開中であり、また、飯田市を中心とする飯伊地域は地方拠点都市地域として位置づけられ、地域の中核としての発展が期待されています。

これらの施設設備に伴い、土地利用の更なる高度化により河川整備、河川空間の利用への期待は、大いなるものがあります。しかしながら河川整備試案における整備状況では、

天竜川下流部において①支川河内川の橋梁改築、②中瀬地区の築堤、③下流部全川における水害対策等

天竜川上流部において①戦後最大の洪水を安全に流すため河道整備及び構造物の改築、②水が強く当たる部分の護岸の整備、③水質の改善、良好な河川環境の保全や地域づくりを支援する河川空間の整備などの課題が残されています。

河川をかけがえのない潤いとやすらぎの空間として保全し、その一方で河川整備を通して沿川地域の発展により一層寄与することが私たちの使命であり今後の課題として努力するものであります。



駒ヶ根市下平坂づつみモデル事業